

授 業 目 名	解剖学I	授 業 形 態	講 義
		配 当 学 期	1 年 (前 期)
担 当 教 員 名	松原 貴子、小形 晶子、水谷 貴佐	単 位 数	1 単 位
		時 間 数	30 時 間
授 業 概 要 学 習 目 標	<p>〔授業概要〕</p> <p>身体を構成するさまざまな臓器は互いに影響を及ぼしながら協調して機能を営んでいる。各器官においても、その形態や内部構造は機能を発揮するために意味をもっている。身体を構成する諸器官を9器官系に分け、それぞれの形態と機能について臨床と関連付けて学ぶ。解剖学Iでは基本構造から学び、運動器系へと進む。理学療法士にとって特に重要な器官である運動器は筋、骨、神経に分けて名称と存在場所、構造(かたち)と機能(はたらき)について学ぶ。</p> <p>〔学習目標〕</p> <p>運動器を構成する骨・関節、筋などの構造と機能、存在場所、多臓器との関連が説明でき、運動学や臨床医学の知識と関連付けて理解できる。</p>		
授 業 回 数	授 業 の 内 容		
第 1 回	解剖学総論、細胞学		〔松原〕
第 2 回	組織学①		〔松原〕
第 3 回	組織学②		〔小形〕
第 4 回	組織学③		〔小形〕
第 5 回	感覚器系①		〔小形〕
第 6 回	感覚器系②		〔小形〕
第 7 回	消化器系①消化管の基本構造		〔小形〕
第 8 回	消化器系②口腔～胃		〔小形〕
第 9 回	消化器系③小腸、大腸		〔小形〕
第 10 回	消化器系④消化腺(肝臓・膵臓・胆嚢)		〔小形〕
第 11 回	運動器系①骨・関節の構造と機能		〔水谷〕
第 12 回	運動器系②骨・関節の構造と機能		〔水谷〕
第 13 回	運動器系③骨格筋の構造と機能		〔水谷〕
第 14 回	神経系①ニューロン、グリアの構造と機能		〔水谷〕
第 15 回	神経系②末梢神経・中枢神経		〔水谷〕
評 価 方 法	講義した範囲と内容について、期末試験にて評価を行う。(100%)		
教 科 書 参 考 図 書	〔教科書〕 「からだの構造と機能」著:A. シェフラー S. シュミット 監訳:三木 明德、井上 貴央、出版:西村書店		
履 修 上 の 留 意 点	かなりのスピードで講義を進めるので、予習をしておかなければついていけない。 カラーペン、ラインマーカー、付箋を用意しておくこと。		
メ ッ セ ー ジ	特になし		